

---

# 大きな株

境康隆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大きな株

### 【Nコード】

N28850

### 【作者名】

境康隆

### 【あらすじ】

大きな株。それは引き抜くのに、家族全員の協力がある話――

「会長！ 大変です！」

「どうした？ 入ってきていきなり。何をうろたえておる。我が社の秘書長たる君が、そんな様でどうする。何があろうと、ワシのようにどっしりと構えんか」

「失礼しました。我が社の株が、買収工作に曝されていまして」  
「何？」

「元より会長が一代で築き上げましたこの会社。会長のご親族だけで、持ち株の比率は五割を超えます。確かに慌てるようなことはありませんでした。お見苦しいところをお見せしました」

「……」

「会長？ どうかいたしましたか？ お顔が優れないようですが？」

「いや。それがな、秘書長…… 最近妻とうまくいっていないんだ」  
「奥様とですか？ 奥様は確かに会長に次ぐ大型株主。万が一買収されたら、ひとたまりも……」

「分かっている。流石に株を手放すことなど、ないと思いたいのだが。仮に離婚となれば、慰謝料以上の額に化けるだろうしな。あの株は」

「今からでも、お話し合いをもたれては？」

「仕事一筋でワシは生きてきた。あれを粗末に扱ってな。今となつては口もきいてはくれはせんのだ」

「何をおっしゃいますの、あなた」

「お前？ どうした？ 何故会社に？」

「話は聞きました。何を情けないことをおっしゃいますの」

「お前。買収には乗らないのかい？」

「もちろんですわ。苦勞した会社ですもの。秘書の方？ これでもう大丈夫ですよ？」

「いえ、まだ半分には届きません。他のご親族の方が、買収に応じ

れば……」

「そうですか。そう思って、連れてきてますわ」

「おばあちゃん。何？　急に話ってお小遣いの話？　上げてくれるの？」

「おお、孫や。お小遣いか？　どれどれ、ワシが」

「あなた。今は株の話ですわ」

「おお、そうだったな。孫や。株の話は分かるか？」

「難しい話。私、分かんない」

「そうか。売ってくれと言われても、絶対に話に乗ってはいかんぞ。小遣いなら、お爺ちゃんが、いくらでもあげるからな」

「はい」

「会長。後の株は、確かご長男様と、ご長女様がお持ちでしたね」

「うむ。長男はワシの言うことは何でも聞く、とても孝行な息子だ。大丈夫だろう」

「おじさん？　そう言えば、おじさん。犬のようにお爺ちゃんの言うことを聞いてれば、いずれはこの会社は俺のものだとか言ってたよ」

「何？　そんな浅ましい下心で、ワシの話を聞いておったのか……説教だ。性根を叩き直して——」

「あなた。今あの子の機嫌を損ねたら……」

「む、そうか。買収に乗りかねんな。ここは我慢か。ところで孫や。お前のママは、ワシの長女は何処だ？　一緒じゃないのか？」

「ママ？　ママはいつも朝帰り。まるで猫みたい。昼間は寝てるわ」

「ええい、だらしない！　呼びつけなさい！　ワシが説教して——」

「あなた。それであの娘がいじけて株を売ったら、どうするおつもりですか？」

「ぬ。会社を大きくし、株を与えて贅沢させてやっても、それで実の子供に、説教の一つもできんのか？　だいたいお前の育て方が——」

「何ですか？　悪いのは私ですか？　何なら、あなたの愛人さんに、

育ててもらった方がよかったかしら」

「お前。古い話を……」

「どうか。古い話以外、私が気づいていないとでも？」

「いや、お前それはな……」

「会長。お取り込み中、失礼します。会長様、奥様、お孫様。犬猫——いえ、ご長男様とご長女様の五名様で、株は分け合っている。それでよろしいでしょうか？」

「おお、そうだ。それで五割と少しの株を押さえている。これで安心だ。いや、待てよ。確か長女の婿に……」

「ああ、そうですね。あなた。あの婿養子に、僅かばかり売ってありますわ」

「いかん。孫や、パパはどうしてる？」

「知らない。会ってない。ママも会わなくていいって、言うし」

「ああ、そう言えば別居中だったな。まずいぞ。くそ、だからあんなうだつの上がらん男を、婿にするのは反対だったんだ。家柄も、家族も、人間も、体格も小さい、あんな、ねず——」

「あなた。そんな話、本人に聞かれたら、ことですわ」

「そうか？ そうだな。ん？ こんな時に電話が。もしもし。ああ、君か！ 丁度今、君の話を。何？ よくも婿養子だからって、今まで散々言ってくれたな、だと。貴様！ 株を売るつもりか？ 貴様の持ち分の株など、たかが知れている。それでもワシらを裏切って、僅かばかりの金が欲しいか？ 何？ 買収をしているのは、貴様だと？ もう他の株の引き抜きは、終わってるだと？ 後は婿だ何だと散々罵られた、自分の分を足すだけだと？ おのれ！ このネズミめ！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2885o/>

---

大きな株

2010年10月30日23時36分発行